

平成26年2月1日

会員各位

協会だよりー254(2月号)

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

トピックス

- 第220回月例会（講演会・新年会）
日時：平成26年2月6日（木）13:30～19:00
場所：エッサム神田ホール（千代田区神田鍛冶町3-2-2）
講演；i. 「化学物質等の安全管理の推移」
環境技術・健康安全研究所 遠藤新治郎氏
ii. 「燃料電池改質技術の新展開」
㈱ルネッサンス・エナジー・リサーチ 岡田 治氏



一. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

【予定事項】

二. 会員会社・担当者の交代（アミタ㈱殿・

㈱大島産業殿）

三. 事務局より（二月度の予定）

四. ベトナム国ハノイ・ハロン湾5日の旅

（鶴岡武さん）

五. 【雑学】野ざらし紀行（甲子吟行）バスの旅2

（富士市より静岡市丸子の宿）

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① 協会だよりー253（1月号）をメール&郵便で送信（12/27）
- ② 第五回運営委員会
日時：平成26年1月16日（木）16:00～17:00
場所：堺化学工業㈱会議室
出席：運営委員、第220回月例会幹事会社、事務局
議題：第220回月例会の準備、第39期の月例会方針、その他
- ③ 第29回JSCRA会（協会コンペ）のご案内(1/9)
日時：平成26年4月3日（木）OUT 9:10 スタートより4組予約
場所：中山カントリークラブ（千葉県八千代市桑橋1299）

【予定事項】

- ① 第220回月例会（講演会・新年会）
 日時：平成26年2月6日（木）13:30～19:00
 場所：エッサム神田ホール
 講演；i. 「化学物質等の安全管理の推移」
 環境技術・健康安全研究所 遠藤新治郎氏
 ii. 「燃料電池改質技術の新展開」
 (株)ルネッサンス・エナジー・リサーチ 岡田 治氏

2. 会員会社・担当者の交代のお知らせ

- **アマタ株式会社殿**
 12月25日、メールにて担当者変更の連絡を頂きました。
 (前) 田部井進一殿・島田晴康殿 ⇒
 2014年1月より
 主担当 アマタホールディングス株式会社 取締役 長谷川 孝文 (はせがわたかふみ) 殿
 副担当 アマタ株式会社 プロジェクト推進グループ 河野 公彦 (かわのきみひこ) 殿
 所在地 〒102-0073 東京都千代田区九段北三丁目2番4号
 TEL：03-5215-8255 FAX：03-5215-8256
- **(株)大島産業殿**
 (前) 大島千尚殿 ⇒ (新) 大島権人殿

3. 事務局より (2月度の予定)

月	火	水	木	金	土
2/3	4	5	6	7	8
×	○	○	220月例会	○	×
10	11	12	13	14	15
×	建国記念日	×	×	○	×
17	18	19	20	21	22
×	○	×	×	○	×
24	25	26	27	28	3/1
×	○	×	×	○	×

2月度の出勤予定：9日間

4. ベトナム国ハノイ・ハロン湾5日の旅

今年の秋に会社の旅行で表記ツアーに参加したので報告します。ベトナムは数回訪れており、昨年カンボジア国のアンコールワット観光途中、南部ホーチンミン市にも寄ったが、今回はハノイを中心とした周辺観光と知り大変興味を持つ。ベトナムは南支那海に沿って南北に長く、其の海岸線は2300キロにも及ぶ。主都ハノイを中心に北部では中国文化の影響が強く残り、南部ホーチンミン市(旧サイゴン)は熱帯の陽気さと活気があふれる。ベトナムの世界遺産は9か所もあり、多くの歴史がある。先ずBC100～1000年間中国の支配を受け、1850年までベトナム王朝時代となり、以後100年間フランスの支配国で、第2次世界大戦で日本軍が仏印を占領し、戦後のベトナム戦争を経て統一国に成ったのを念頭に各地を訪れた。国名は安南、越南、仏印、ベトナム等と変遷している。

成田から4時間のフライトだが2時間の時差があり、14時ハノイに着く。入国審査後バスでハロン湾に向かうも、5時間走りやっと目的地に着く。のどが渇き夕食のビールは格別、ハノイ、E.E.E、サイゴンと3種あり各々味が異なり、以後吞み分けた。海鮮鍋料理を賞味し、隣の宿ノボテルハロンベイに落ち着く。朝早かったので疲労あり、回復にと3人でマッサージをするも、90分で\$25は安価である。お湯に足を浸したまま、揉んでくれるが叩く動作が長く、長時間の按摩も矢張り日本式がリラックス出来る。

翌日ハロン湾観光であり、専用クルージング船に乗り込む。「海の桂林」と呼ばれるベトナム屈指の景勝地である世界遺産ハロン湾。静かな水面に姿を現す2,000もの奇岩奇峰はまるで絵画の世界に入ったかのような神秘的でありながら情緒ある風景で、一見の価値がある。ハロン湾伝説の紹介があり、「龍が降りる」と言う意味を持つハロン湾。ハ(降)ロン(龍)という名は、かつて国難の時に外敵に悩まされたこの地に龍が舞い降り、玉を吹き出し、其れが奇岩となり敵の侵入を防いだという。此の風光明媚な景観は幻想的で松島の比では無く、奇岩の間を縫うようにめぐるクルーズは観光のハイライト。船上での海鮮料理も絶品で、ゆっくり味わえるのも世界遺産の内だ。奇岩を眺めながら進み、水上生活者の養魚場などに立ち寄り、海老、カニ、巨大シャコ、魚等新鮮な品を買うと、船内で料理し昼食に追加してくれる。



奇岩ウォッチングで多くの岩に、その形から名前がつけられ、本当に其の姿に見える奇岩には自然の造形の不思議さに驚くばかりだ。鍾乳洞の有る島に上陸、洞窟探検では林立する巨大な鍾乳石がライトアップされ、このクルーズの目玉の一つである。出口で5枚¥1,000円のシャツを買うも、後で幼児用と分かりまんまとはめられた。午後は再度バスを走らせ、特産の陶磁器で有名なバッチャン村へ行き、焼き物生産の全工程を見学する。中国の影響を強く受けた硬質な白磁が特徴で、その高い品質を求めて世界中から買い手が集まる由、村内工場で製造、販売しており、若い女性が上手に画付けしており見事だ。仕上げは市内のお洒落なコロム調のレストランでハノイ料理を満腹し、宿のハノイ：ヒルトンオペラに泊る。当市は北側で春夏秋冬があり、冬は8～10度迄気温が下がり、余り寒いと小学校は休校と信じ難い。ガイド曰く、ベトナム名物は道路を埋め尽くすバイク、アオザイ、蓮、戦争(ベトナム戦争)等で、枯葉剤(ダイオキシン)を撒いて、ベトナムドクちゃんの問題を起こした。あの戦争で300万人の死亡者を出し男が不足して困ったらしい。現在の平均年齢は男30歳、

女28歳と日本よりはるかに若く、又給与も¥1、5万～2万円/月と安く、視力が優れ、器用で人柄も良く、親日家であり、日本進出企業のソニー、パナソニック、ホンダ等の工場を見かけた。女性は80%が働いており、男子は18～25歳で徴兵制度がある。結婚年齢は都会で25歳、田舎では21歳位だが、21歳を超えると売れ残り、31歳オーバーは病気が頭がおかしいと言われるらしい。一般にかかあ天下で、離婚は少なく、子供は2～3人で多いと会社で首になるらしい？日本と同じく昔は7～8人が普通の由。農村は早寝をするのでどうしても子沢山になる。3世帯同居も50%居り、皆給与が安いので、警察官は取り締まりでワイロを稼ぎ、学校の先生は半日授業で午後はアルバイトをする。バイクの氾濫は衆知の事だが、自動車は日本の倍と世界一高価で、ガソリンも120円/Lと所得から其の負担は大で、スクーターが主流をなす。全人口9千万人でハノイに1千万万人居り、成人の半数がバイクを所有し50%は無免許で、会社の返りは皆酒を呑むので注意するように言われた。ガイドブックにも事故は日常茶飯事と有るも、滞在中終ぞ事故は見なかった。信号が無く道路横断はゆっくり渡ると、止るか避けてくれ、事故防止ルールを熟知している。バイクにはバックミラーは無く、皆前しか見ないで走り、ミラー付きは田舎者と馬鹿にされる。宗教は仏教が80%で中国やインドの影響があり、大乘仏教、小乗仏教があり、敬虔な信者が多い。民族としては、90%が京族、越族で、10%が53種の少数民族であり、皆国境に住んでいる。二つの大都市とも大河下流で、中国国境では問題があり、海上でも海南島周辺の領海権で紛争が起きている。日本の尖閣列島も応援する由。



この国の義務教育は小学校5年、中学校4年の9年間で、進学率は高いらしい。意外と知られて無いのがコーヒー生産はブラジルを抜いて世界一であり、最高級品はじゃこうコーヒーで、一般品の倍と高価である。食物ではフォー（米麺）、生春巻、揚げ春巻き、お好み焼き等がお勧めらしい！蓮田圃が多いのはカンボジアと同じく、葉はお茶用と捨てるところ無し。珍しい習慣でネズミ料理が結婚式でよく使われるのは子孫繁栄の為か？市内にはお煎餅の如き薄いビルが多いのは地価が高いためだ。因みに個人住宅は土地が買え、農地や工場は50年の借地で中国と同じである。

翌日は終日ニンビン観光で、最初古都「ホアルー」へ、11世紀ベトナム王朝が出来、門柱に漢字記入があり、千年間の中国支配の影響である。入口の牛を引いた農夫を撮影したらチップを要求されたが、至る所でプロの写真屋に撮られ買はされるが、\$1/枚と格安である。

昼食後、チャンアンに行く、石灰岩の奇岩が続く溪谷の間に小川が流れ、「陸の桂林」に例えられる景勝地。その小川を小舟に乗ってめぐるクルーズの「タムコック」が有名で一舟に2名と船頭セットで往復90分乗る。舟首に座り上手に両足指で2本の櫓を漕ぎ進み、切り立ち聳える間を通ったり、頭上すれすれの穴を抜けたり、素晴らしい船旅だ。沢山の船が行き交い、ミニスカートの若い娘船頭を期待するも夢の又夢。自分等も備え付けの櫓で手伝い20船も抜かし大汗をかく。途中小舟に果物、ジュース満載の物売りに会い、船頭とぐるで買わないと動かず当方の負け。制服の女子高校生ボートに会うも濡れて透き通る無地のアオザイ制服に非ず話題が又減る。トップで岸に戻ってくる社員の写真を撮っていたらプロに商売の邪魔とつまみ出された。



最後の日はホウーの朝食後ホーチンミン廟を訪ねる。ベトナム建国の父「ホーチンミン」の遺体が安置されており、佛統治時代からベトナム戦争まで革命を指導した初代共和主席である。広大な敷地

に廟はあり、衛兵交代などバッキンガム宮殿と同じだ。次は一柱寺で千年前李朝時代の建立で、本堂が一本の柱で支えられている。子宝がかなうと多くの人が訪れる。

続いて、ベトナム初の大学が境内に開校したことから学問のシンボルになっており科学合格者の名のある石碑は世界遺産の孔子廟「文廟」で驚いたのは大学生其れも女子大生の大群が居り、制服角帽で写真を撮ったりお参りをしている。ガイド曰く大学卒業時泊まりがけ等で皆が最古の大学の有ったこの地に来る習慣らしく、丁度今その時期のようだ。日本の卒業旅行に似ている。多分写真屋の貸し制服で、撮影後帽子を投げるしぐさもある。若いエネルギーに溢れており、こっちまで若返った気がしたがむむ？写真にあるよう美人も多し。



徒歩で隣の世界遺産「タロン遺跡」に行く、11～19世紀に栄えたベトナム王朝の城が築かれた場所でここも若い娘が満杯である。



市内に戻り、市民憩いの場「ホアンキエム湖」近くの旧市街ショッピング通りに行く。昔の王さまが職人を招集し住ませたのが始まりとのこと。バスから出、散策する。古き良き下町の情緒の旧市街だ。当時の城壁も残るかつての城下町で、保存地域にも指定されている。昔ながらの建物が細い路地にぎっしりと建ち並び、喧騒と活気に包まれた町並みは散策するだけでも楽しい。縦横無尽に入り組んだ通路毎にシルク製品や銀細工、おもちゃ、眼鏡、靴と目的の品がじっくり選べる。夕食に美女の一弦琴生演奏を聞き乍ら初めての生ビールを嗜む。

アッと言う間の4日だったがベトナムならではの生活、習慣を知り実りある旅であった。

アジア物性材料株式会社 鶴岡 武



5.【雑学】野ざらし紀行バスの旅・2

野ざらし紀行バスの旅No.2は12月11日、上野の東京文化会館前を7時30分に出発して始まりました。首都高、東名高速共に順調で富士ICまで2時間前後で着きました。目的の富士市に入り先ずは源太坂の芭蕉さんの句碑へ向かいます。

《源太坂》富士市今泉9丁目(源太坂クリニック近辺)



源太坂より望む富士山と、源太坂クリニック駐車場に建立されている句碑

目にかゝる 時やことさら 五月富士 (芭蕉翁行状記) (元禄7年)

源頼朝が所有していた名馬、生食(いけづき)と磨墨(するすみ)という2頭の名馬の内、梶原源太景季は生食が欲しかったのですが、やっとのことで磨墨をもらいました。しかし、後から頼朝に会いさつに行った佐々木四郎高綱は生食を頂きました。それを悔しく思った景季は、今泉の小高い丘で高綱を待ち構え「殿から生食をもらってきたのかと、問い詰めたところ差し迫った気配を感じた高綱は、笑いながら小声になって「昨日の明け方、そっと盗んできたのだ」と言いました。それを聞いた景季は、「そうだったのか。ならば私も盗めばよかった」と笑いながら引き揚げていきました。この場所が源太坂と言う名になった謂れです。その後、景季と高綱は、宇治川の先陣争いで互いに競い、立派な手柄を立てたそうです。(広報ふじ平成12年・富士の民話あれこれ・参照)

続いて富士市街の中心部へ移動します。現在の富士市は人口約25万人、静岡県では浜松市、静岡市に続いて第三位の都市です。昭和41年(1966)旧富士市、製紙工場で有名な吉原市、鷹岡町が合併して新しい富士市となりました。

《平垣公園》富士市富士町233-1 富士市交流プラザ隣

ここに建立されている句碑は、文化14年(1814)年、野楊により建立されたものですが、元々ここに有ったわけではなく、何ヶ所かの移動の後、昭和38年ここに落ち着いたといわれています。その句は

ひと尾根は しぐるゝ雲か 富士の雪 (泊船集) (貞享4年)

山本健吉氏は、富士の全山はすでに雪をかぶって真白であるが、麓の一つの尾根に低くかかる雲は、時雨雲かも知れぬ、と解説しています。



富士市交流プラザ前の芭蕉の句碑
(野楊建立)

植込みの内側には「野ざらし紀行」の俳文碑が原文と現代の文字の2基、建っています。黒御影石でかつ鏡面仕上げをしているため、鏡のように回りの映り込で写真の仕上がりは良くありませんが紹介いたします。



野ざらし紀行

富士川のほとりを行くに三つ許なる捨子の哀れげに泣有、この川の早瀬にかけて、うき世の波をしぐにたえず、露計の命待間と捨置けむ。小萩がもとの秋の風、こよひやちるらん、あすやしれんと、袂より喰物をなげてとほるに

猿を聞く捨子に秋の風いかに

いかにぞや汝、ちちに悪まれたる坎、母にうとまれたるか。ちゝは汝を悪にあらじ、母は汝をうとむにあらじ。唯これ天にして、汝が性のつたなき(を)なけ。

富士市交流プラザ前に別れを告げ、バスは富士川渡り再度、富士川楽座のある富士川SAより東名高速に入ります。静岡ICで一般道に、安倍川を渡って東海道五十三次丸子宿の名物とろろ汁・元祖丁子屋に着きました。今日の昼食は、その有名な麦とろ定食です。道路際の敷地内には芭蕉さんの句碑が。門人の乙州が江戸へ商用で赴く時、大津乙州亭での送別の席での歌仙の発句です。前書には「餞乙州東武行」とあります。

梅わかな 丸子の宿の とろろ汁 (猿蓑) (元禄4年)



丁子屋前庭にある芭蕉さんの句碑



東海道中膝栗毛の主人公、弥次さん・喜多さんが飛出てきそうな丁子屋の藁葺屋根と麦とろ飯。飯は軽くとろろはたっぷりと入れ啜るように食すようです。

《天柱山吐月峰紫屋寺》 静岡市駿河区丸子 3316

連歌師宗長法師旧蹟及月の名勝。室町時代の中期永正元年（1504）連歌師紫屋軒宗長が草庵を結んで閑居した所、吐月峰の名で天下に知られた名勝です。



本堂から眺める庭園は、西片にそびえる天柱山、首楊山を巧みに取り入れた借景庭園です。庭には何とか紅葉が残っていました。

《大鑓山誓願寺》静岡市駿河区丸子 5807



家康に命じられて、秀頼が方広寺に再建した梵鐘の銘文（東福寺、南禅寺に住した禅僧文英清韓の作）のうち「**国家安康**」「**君臣豊楽**」の句が徳川家康の家と康を分断し豊臣を君主とし、家康及び徳川家を冒瀆するものと看做され、大坂の役による豊臣家滅亡を招きました（方広寺鐘銘事件）。慶長19年（1614）、片桐且元は家康に申し開きのため面会を求めて駿河を訪れました。その時の宿舎が誓願寺です。豊臣・徳川の間を取持つため、家康から示された条件を帰阪後報告するも、交渉が不成立となり、淀君に疑われ大阪城を退去し、大阪夏の陣後、京都で没しました。ここ誓願寺に片桐且元が葬られています。

《御羽織屋》静岡市駿河区宇津ノ谷 171



宇津ノ谷の家並みと御羽織屋



御羽織屋の看板がある家の脇から裏手に回り、縁側より和室に上がります。90歳は越えているようなお婆さんが、御羽織の謂れを流れるように説明いたしました。天正18年（1590）豊臣秀吉が小田原征伐の際、馬の草鞋を差し出した名主の忠左衛門に、その礼として羽織を与えました。その後屋号を御羽織屋と称して、その羽織が420年経った現在でも保管されています。

また敷地内には明治天皇が延べ2回、御羽織屋に御小休された石碑が建立されています。

御羽織屋から程近く裏手に「厄除けの十団子」として知られる慶龍寺があります。御羽織屋でも現代の十団子売っているの、一つ買い求めました。



《慶龍寺》 静岡市駿河区宇津ノ谷 729-1



蕉門十哲の一人、許六の代表作。

十団子も小粒になりぬ秋の風

十団子の謂れ (解説版参照)・・・昔、宇津ノ谷峠に旅人を食べてしまう鬼が現れるため、諸人の難を救おうと在原業平の祈願によって地藏菩薩が旅僧に姿を変えて、宇津ノ谷峠で鬼と対決しました。旅僧は人間の姿に化けて現れた鬼に「すみやかに本体を現せ」と言うと、たちまち六丁の鬼の姿に変身しました。「なるほど、お前の通力はたいしたものだ。今度は、できるだけ小さくなってわしの手のひらに乗ってみよ」。鬼は「よし」と答えて小さな玉となって旅僧の手のひらにぴょんと飛び乗りました。旅僧はいち早く手に持った杖で、その玉を砕き「お前はこれで仏になった。これから旅人を苦しめてはならぬぞ」と悟し、砕かれて十粒になった鬼を飲み込んでしまいました。その後、鬼の災いもなくなり、道中守護のために、お団子を数珠の形にして「十団子」を作り、魔除けとしました。

《安倍川餅の石部屋》 静岡市葵区弥勒 2-5-24

安倍川の東岸には創業文化元年 (1804) 元祖安倍川餅の石部屋があります。静岡市に来たら、ここは外せない処でしょう。一皿 700 円なりの餅を佐々木さんと半分づつ、いただきました。みやげは 2 皿分 (1400 円) より販売。2 パック購入し土産となす。



今回はここまで、早速東名高速にて帰路につきます。

【文責・専務理事】